



新年会にて思うこと

日本薬剤師連盟 副会長 本田あきこ

1月は多くの新年会に招いていただいておりますが、その折に主催者や来賓の方々のご挨拶の中で必ず触れられているのが、2025年を目指して体制整備が進められている「地域包括ケアシステム」における薬剤師・薬局への期待です。

地域包括ケアシステムとは、住み慣れた地域で高齢者に対し、医療、介護、予防、住まい、日常生活支援が包括的に確保される体制とされています。

高齢者が住み慣れた地域で日常生活の継続が可能となるよう、薬剤師や薬局には他の医療、介護等の関係者と連携しながら、その機能を発揮していくことが期待されています。そのためにはどのような支援が必要なのか、薬剤師の代表として発言する時、何が一番大切なことなのか、私に何ができるのだろうか等身の引き締まる思いでご挨拶を聞いておりました。

平成28年4月に発災した熊本地震において薬剤師会の災害対策本部で活動した私にとって、その後の復興、とりわけ生活再建には大変時間がかかることをひしひしと体感しました。災害現場での薬剤師は、救護所での調剤、巡回医療班への医薬品の払い出しや巡回現場への帯同、避難所でのOTC薬の供給とともに環境衛生への助言や指導、避難者への声掛け等生活全般への援助を行っていました。平常時においても薬剤師や薬局が地域で発揮する機能は、災害時と同様と考えます。災害時に特に実感したのは他の職種との連携と信頼関係の構築であり、そして何よりも薬剤師が他の職種のみならず、地域の住民から信頼される体制の整備が必要であると感じました。平時はもちろんのこと、非常時においてもしっかりと地域住民の方々の安全で安心な生活を支える、そうした薬剤師・薬局業務を実施できる体制整備に向けて私にできることを今後とも学んで参りたいと思います。

2月から全国各地を訪問させていただきますが、意見交換の場をとらえて、現場の皆様から寄せられる声をしっかり受け止め、これからの活動の糧にしたいと思っております。本年も何卒よろしく願いいたします。

- 1 Facebook ページ「本田あきこの部屋」を公開しました。

右のQRコードから閲覧してください →

- 2 本田あきこのホームページを開設しました。

<https://www.honda-akiko.jp/>

- 3 本田あきこメールマガジンを開始しました。

右のQRコードから登録をお願いいたします →

